

【自由課程】

【メインテーマ】

「明日から使える歯科技工」



【略歴】

- 1980年 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校 卒業
- 1984年 (有)協和デンタル・ラボラトリー 設立
- 1999年 ITI (straumann) 上部構造認定ラボ取得
- 2002年 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校兼任講師
- 2004年 日本歯科技工学会認定士
- 2005年 デンツプライ三金公認セルコンインストラクター
- 2009年 (社) 日本口腔インプラント学会認定インプラント専門歯科技工士
- 2009年 日本歯科審美学会認定士

【講演演題】

「過去・現在の技工と将来の技工」～情報と戦略と戦術～

【抄録文】

2013年3月10日（日）

静岡県歯科技工士会生涯研修

「過去・現在の技工と将来の技工」～情報と戦略と戦術～

協和デンタル・ラボラトリー 木村 健二

CAD/CAM は今や私たち歯科に携わる者にとって必要不可欠なツールとなりました。センター方式に用いられる大量生産用大型機器、技工所向けの汎用機器、そして医院向けの簡便機器というように、特徴を明確にして進化を遂げ、歯科治療、歯科技工の概念と手法に革新をもたらし、劇的な変化を生み出しました。

それに伴い、ジルコニアのみならずチタン、コバルトクロム、ジルコニア、二ケイ酸リチウムといった新素材の加工が可能となりました。

では、実際にどのように日々の臨床にCAD/CAMを取り入れていけばよいのでしょうか？機器を導入しさえすれば今後の道が拓けるのでしょうか？答えは否、であると考えます。CAD/CAMの導入をお考えの際は、自社の規模と特徴を把握し、自社の力を最大限に発揮できる利用方法を熟慮するのが良いと考えます。私は技工所向けの汎用機器の特長を最大限に生かし、時にはアウトソーシングのシステムを活用し、患者様とドクターに最も適した方法と素材をご提案できるよう努めていきたいと考えております。

近年、ジルコニアフルクラウンに対応できる素材及び機器が出てきており、大きな注目を集めています。この理由として、近年の貴金属価格の高騰、陶材焼付金属冠や陶材焼付ジルコニア冠の前装材チップング、ハイブリッドセラミックスの着色や摩耗等、これまで存在してきた素材物性による悩みを解消しうる補綴方法として注目を集めているのだと考えられます。当社においてもフルジルコニア症例の割合は増加しています。

しかし、忘れてはならないことは、人体にとって何が一番良いのかということです。

今回は、技工士として時代変化に柔軟に対応していくためにはどうしたらよいのか、悩みながら歩んできた28年の経験をふまえてお伝えします。

【主な書籍・論文・学会発表】

【論文】

- 2009年 歯界展望・・・・・・・・・・IDS 2009にみたCAD/CAMの現状とこれから
- 2009年 日本口腔インプラント学会誌・・印象採得したインプラント作業模型の精度
3種類の製作方法の比較
- 2010年 日本歯科技工学会誌・・・・・・・・CAD/CAMシステムによるセルコンオールセラミック
修復の展望
- 2010年 (社)日本歯科先端技術研究所・・インプラント上部構造の適合精度を実現するために
学術会誌 必要な条件

【学会発表】

- | | | |
|-------|-----|--------------------------------|
| 2011年 | 2月 | 日本口腔インプラント学会 第30回関東甲信越支部学術大会 |
| | 9月 | 日本インプラント臨床研究会 |
| | 10月 | 第33回日本歯科技工学会学術大会 |
| | 11月 | 国際インプラント学会学術大会 |
| 2012年 | 1月 | 日本口腔インプラント学会 第29回九州支部学術大会（宮崎県） |
| | 1月 | 第200回学術臨床放談会(岡山県) |
| | 4月 | 日本歯科CAD/CAM学会 |
| | 9月 | 第42回日本口腔インプラント学会（大阪府） |
| | 10月 | 2012年口腔修復技術交流大会（北京大学） |